

今村復興大臣の宮城県訪問ぶら下がり会見
(平成29年2月18日(土) 1505～1510 於) 宮城県石巻市)

1. 発言要旨

本日は松島町と石巻市を訪問いたしまして、定期観光船発着エリアの視察、そして、観光関係の皆さん方との意見交換、それから石巻市では水産加工業者の方々が連携して立ち上げられたアンテナショップと復興・創生インターンの皆さんの視察、それから、こちらでは応急仮設住宅における「心の復興」事業と、地域包括ケアの取組等の視察を行ったところでございます。

まず、松島町では観光の問題、非常に恵まれた観光資源を持っているんですが、なかなか元に戻らないと。今後どうやっていくかということで、地元でも、広域的な市町村の取組でやっていこうとか、そういういろいろな取組を今、始めておられますし、仙台空港の完全民営化というのもあります。そういったものを核にして、いろいろな広域的な取組、そして、私が言ったのは、例えば自然、そういった観光地だけではなくて、食、それから文化、伝統、そういったものも組み合わせた立体的な広がりを持つ取組をもっと作っていただいたらどうだろうか、それをもっともっとアピールをしていただくということでもあります。

それから、JRの松島海岸駅の話も出まして、こういったことについても是非という話がありましたので、しっかり承ってきたところであります。

それから、石巻市では、水産加工を中心にした地域の産業の盛り上げということで、マルシェを作っておられるわけにあります。是非これからはいろいろな、まだ課題がありますが、一つ地元でそういったものをインテグレートして、そして、できるだけ大マーケット、東京に近いわけにありますから、そういったところにもしっかりとアプローチをかけるということ。そして、具体的な、掛け声だけではなくて、いろいろな、実際に消費者の皆さんのところに直接アピールが行くような取組、これは復興庁でもそういったことをこれからしっかり取り組んでいきますので、是非タイアップして進めていきたいというふうに思ったところであります。

そして、ここ開成・南境仮設団地では、「心の復興」事業を視察し、その後、包括ケアセンターにおいて長先生からいろいろお話を聞きました。聞くところによると、この応急仮設も7割の方がもうお出でになられていると。やはり最初のころと違う問題がいろいろ出てきているようでもあります。それは何かというと、一つは、ここに残っておられる方もだんだんさみしくなってくると思いますか、そういう中でコミュニティをどう維持していくかとい

う課題、そしてまた、こういった医療関係等々、心のケアの問題が非常に大事だなということが分かりました。

そして、もう一つは、恒久住宅へ行った先々でも、行かれた方がどういう状況になっておられるのか、また、そこでは新しい暮らしが始まるわけでありませけれども、うまくいっているのかなど、そういったところをいろいろな面で心配もしておられまして、今後、この石巻がある意味では先端的な取組といたしますか、今までやってこられて、そして、これが今後も、他の地域でも起きる問題なので、是非そういった、特に高齢者を中心にしたケアをどうするかということ、医療関係等々を含めて、しっかり勉強して、また、何よりも現場でそういったことを肌で感じておられる、長先生のような方の御意見を参考にしながら、いろいろな対策を立てていきたいというふうに思ったところでございます。今日はいろいろな意味でいい勉強になりました。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 震災から間もなく6年を迎えるわけですがけれども、本日、被災地を御覧になって、これからの復興をどういったふうに進めていこうかというふうにお考えになりましたでしょうか。

(答) いろいろな局面はありますが、一言で言うと、やはり時間との勝負だと思えます。早くいろいろな取組をして、早く手を打っていくということが、いろいろな意味で大事だと思えます。産業の再生にしても、もう今、既にかなり柵を奪われているようなところもありますから、いいものを作っても、なかなかそこに持っていったって置くところがないとか、郊外地で、そういったところもありますから、早く、それがもう完全に固まってしまわないうちに、もう一回、取り戻すという動きをしっかりとやったほうがいいと思えます。

(以 上)